

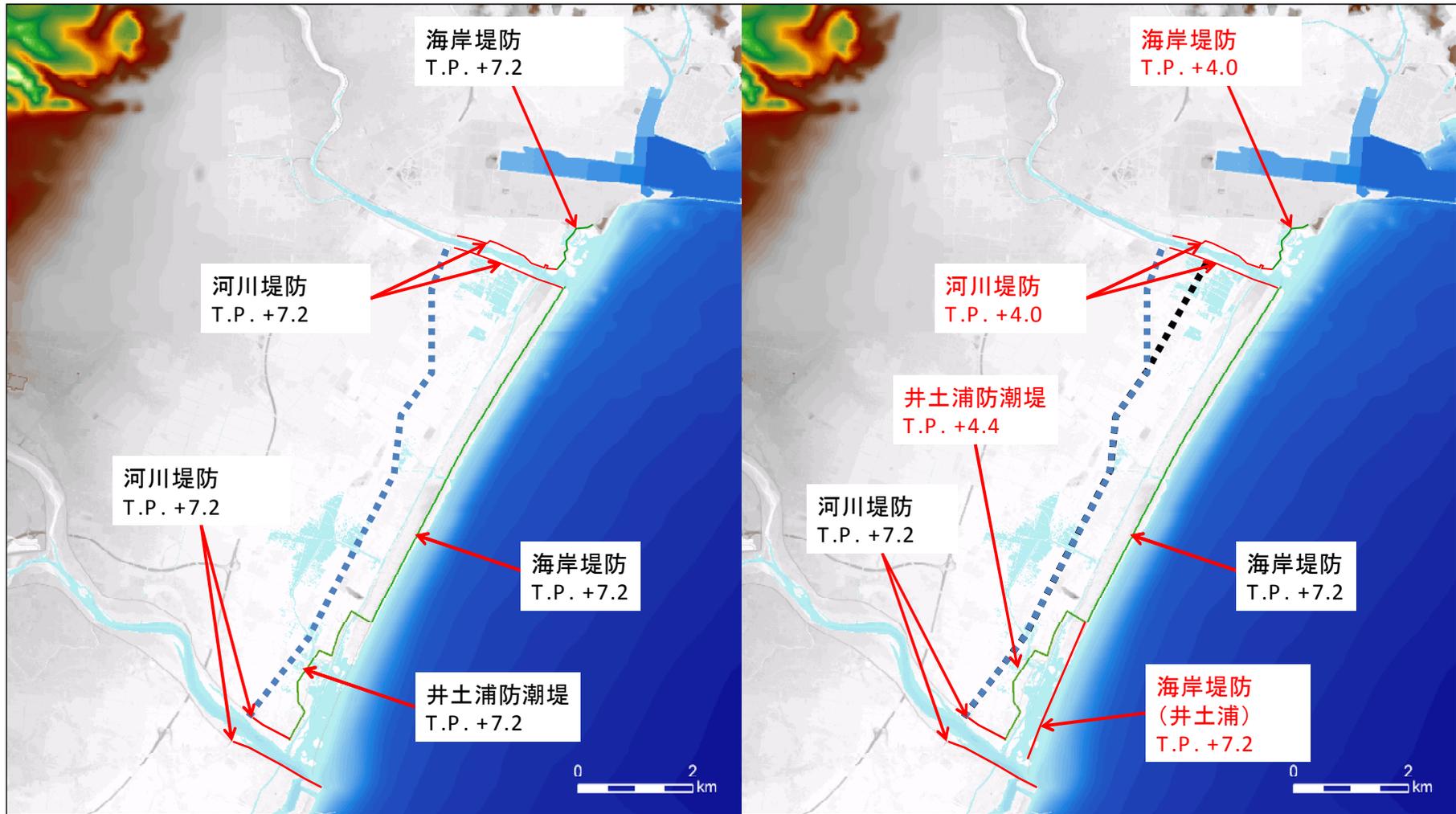
津波シミュレーション結果比較表 (H23. 9. 11 時点)

	①現況再現(公表) 大潮時の満潮位		②二線堤の効果(公表) 海岸堤防 T.P.+6.2m 井土浦堤防 T.P.+4.4m 県道盛土 6m		③新しい堤防高の効果 海岸堤防 T.P.+7.2m 河川堤防 T.P.+7.2m		④県道盛土3mの効果 T.P.+7.2m 県道3m		⑤県道盛土6mの効果 T.P.+7.2m 県道6m		⑥県道ルートの効果 T.P.+7.2m 直線県道6m	
		評価		評価		評価		評価		評価		評価
市街地	・七北田川北部に浸水深2m超のところが見られる。 ・七北田川南部でも、東部道路を越えて、浸水深2m超のところが見られる。	×	・①以上に浸水区域が広がる箇所があり、浸水深が増す箇所もみられる。	×	・①以上に浸水区域が広がっているが、浸水深2m超の区域は①よりも狭い。	△	・市街地への被害は③とほぼ同じ。 ・河川堤防の効果が高過ぎ、県道高さを下げた効果は見られない。	△	・市街地への被害は③とほぼ同じだが、②よりは減少している。 ・河川堤防の効果により、県道盛土の影響が北側市街地へ及ばない。	△	・市街地への被害は③とほぼ同じ。 ・河川堤防の効果が高過ぎ、県道直線化の効果は見られない。	△
集落	・浸水深4m超の範囲が広く、家屋への被害も甚大。	×	・県道以西は4m以下の浸水深となっており、一部の集落は全く浸水しない。 ・県道以东は、4m超の浸水深となっており、被害は甚大。	△	・広い範囲に2m超の浸水深となっており、特に南部では4m超の浸水深で、被害は甚大。	×	・県道以西の浸水区域は③とあまり変わらないが、浸水深は減少し、被害は比較的少ない。	△	・県道以东は、4m超の浸水深となっており、被害は甚大。 ・県道以西の浸水範囲が縮小し、浸水深2m超～4mの部分も狭いため、被害は大幅に軽減。	○	・県道を直線化することで、旧線形との間の家屋被害は軽減されるが、それ以外は⑤とほぼ同じ。	○
農地	・広い範囲に浸水区域が広がっている。	×	・①よりも浸水区域は狭く、一部は全く浸水しない。	△	・一部は全く浸水していない部分は見られるが、①の浸水区域と大きく変わらない。	△	・県道以西の浸水区域は③とあまり変わらないが、浸水深は減少。	△	・県道以西の浸水範囲・浸水深ともに大幅に縮小される。	○	・県道以西の浸水範囲・浸水深ともに大幅に縮小される。	○
県道以东の浸水深	概ね4～8m 南部で8m超	×	概ね6～10m 南部で10m超	×	概ね4～6m 南部で8m超だが、北部では一部4m以下となる	△	概ね4～6m 南部で8m超だが、北部では一部4m以下となる	△	6～8mの区域が広がる 一部で10m超	×	6～8mの区域が広がる 一部で10m超	×
構造物のコスト等		—	盛土高が高く、工事費、用地費などコスト高。構造面も強化が必要。	×		—	工事費、用地費などコストは抑えられる。構造面でも6mより楽。	△	盛土高が高く、工事費、用地費などコスト高。構造面も強化が必要。	×	盛土高が高く、工事費、用地費などコスト高。構造面も強化が必要。	×

※「東日本大震災による被災現況調査結果について(第1次報告) 平成23年8月4日 国土交通省都市局」によると、「浸水深2m前後で被災状況に大きな差があり、浸水深2m以下の場合には建物が全壊となる割合は大幅に低下する」

※「東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会 第二次報告会(平成23年7月1日)」の資料によると、津波リスクの評価例として、「2004年のインドネシア・バンダアチェにおける津波被害では、浸水深2mでおおよそ2割の流出率、4mでおおよそ8割の流出率となっている。また、浸水深2mを越えると死亡率が急増する。」

### 海岸堤防の高さと配置について



シミュレーション結果③～⑥の施設配置

9月9日時点での情報による施設配置

# 津波シミュレーションの検討状況について

